



熊谷市立桜木小学校 グランドデザイン



学校教育目標 (目指す児童像)

「進んで学ぶ子」「心の美しい子」「強くたくましい子」

目指す学校像 「一人一人を大切に協働的な学びで学力向上に取り組む学校」

学校研究課題 「『主体的・対話的で深い学び』を目指して」

～思考力を高めるための、見通しと振り返りを中心とした授業づくり～

「新熊谷プロジェクト」で
学力日本一を目指します

教科横断的で
オーセンティックな授業を

自分の考えを積極的に表現する

自己有用感を大切に集団作り

目標をもたせて体力づくりに励む

進んで学ぶ子 知

- ◎話し合い活動を充実させ、思考力、表現力の育成へとつなげる。
- ・学び合いの活動を通して、思考力・判断力の育成
- ・学習内容の明確化
- ・主体的・対話的な学びの充実
- ・主に応じた指導の充実
- ・英語「ラウンドシステム」の考え方を全学年で実施
- ・家庭学習の充実 ※確実な見取り
- ・「学習スタンダート」の徹底
- ・「暗唱チャレンジ」による語彙力の向上
- ・6年間を見通した「話し合い活動」の充実
- ・ICTを効果的に活用した授業の展開
- ・学力の向上を図る補充学習「くまなびスクール」の充実

心の美しい子 徳

- ◎「熊谷の子どもたちは、これができます!『4つの実践』と『3減運動』の更なる充実
- ・異学年交流による豊かな社会性の醸成
- ・学級の中での自己存在意識の向上を図るための実践化
- ・「保護者のスマートフォン『4つの実践』と「スマホ使い方宣言」をリンクさせ、スマートフォンの安全な活用を実践
- ◎「あいさつ」「返事」の奨励からの情操教育の充実
- ・気持ちのよい「あいさつ」「返事」を“道徳の見える化”の基本として実践
- ※地域との協働による指導(学校運営協議会での今年の課題)

強くたくましい子 体

- ◎体力の向上
- ・体育授業での運動量の確保
- ・新体力テストに向けた重点的な取組 ※握力
- ・さくら木タイムにおけるマラソンの奨励
- ・目標を持った体力作り
- ・なわとび集会などによる短なわとびの活用
- ◎健康教育の充実
- ・歯や体の健康への関心の向上
- ・HQCシートの活用による正しい生活習慣の確立 (早寝・早起き・朝ご飯の推進)

家庭・地域との連携

- (1) 学校運営協議会との着実な連携・協働
 - ・目指す児童像の共有
 - ・課題解決に向けた協働した取組
 - (2) 地域の組織との協力関係の維持
 - ・学校キャンプへの協力
 - ・読み聞かせへの協力
 - ・地区運動会への協力
 - ・さくらまつりへの参加等
 - (3) 学校応援団との積極的な連携
 - ・グリーン・キーパーやフラワー・キーパーへの依頼と協力
- ◎学校運営協議会で出た課題を保護者・地域と教職員がチームとなり、児童にとってよりよい方向へと改善する。

- 全国学テで、「国語」、「算数」ともに正答率 80%以上を目指す。
- 県学調で、前年比プラスになる児童 90%以上を目指す。

- 4つの実践・3減運動に関する調査の「返事」の項目で「できる」と回答する児童が 100%とする。
- 保護者アンケートの「あいさつ」に関する項目で 90%以上の肯定的回答を得る。

- 新体力テストで、A及びBの児童を合わせて 80%とする。
- 4つの実践・3減運動に関する調査の朝食の項目で「できる」と回答する児童を 100%とする。

学校経営の根本

- (1) “挑戦する”ことが何よりも自分を高めるという認識づくり、姿勢づくりに努める。
- (2) 全教職員が重なり合って仕事をし、学校経営参画意識を高め、学校教育目標の達成に努める。
- (3) 頑張っている子が称賛される、意欲と活気に満ちた学校づくりに努める。
- (4) 授業で勝負するために研修を積み、学力日本一を達成するための指導力向上に努める。
- (5) “困った子”ではなく、“困っている子”の姿勢で子供をたくさんかまうことに徹する。
- (6) 学習規律の徹底こそが教育環境の向上につながることを認識を高めさせる。
- (7) 保護者や地域社会との連携・協働を強化し、開かれた学校づくりに努め、児童の「生きる力」の育成に努める。

